

二戸アスファルト工場完成

カシオペアアスコン共同企業体整備

秋にリサイクル施設も

カシオペアアスコン共同企業体（二戸市、田祐久代表）が同市福田に整備を進めていた、アスファルトの製造プラントが23日、完成した。7月1日に稼働予定。秋ごろには、アスファルト廃材をリサイクルする中間処理施設も整備する。
（佐藤周平）

共同企業体は、鹿島道 クタ（中田勇司社長）で路（東京）と同市の中館 構成。新たなプラントは、建設（中館眞代表）、フ 鹿島道路が1971年に

整備した施設の老朽化を受け、昨年9月から工事を進めてきた。

新プラントの敷地は9550平方メートルで、フクタの石材工場などがあつた跡地に整備。道路舗装用のアスファルトを製造する。旧プラントの約1・5倍の生産能力があり、1時間当たりの出荷量は96ト。計180トを貯蔵可能なサイロも備える。製品は国道や県道などの舗装工事に加え、高速道路向けとしても対応できる。

23日は現地で神事が行われ、関係者約60人が施設の完成を祝ったほか、プラントに火入れ（点火）した。鹿島道路の吉田栄信社長は「良質なアスファルトを供給し、地域の発展に貢献したい」とあいさつした。

新設されたアスファルトプラントを見学する関係者

23日、二戸市

